

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	ビジネス基礎	2	1年 情報ビジネス科	必修	ビジネス基礎 新訂版 (実教出版)	全商商業経済検定 3級問題集(実教出版)

学習目標	すでに、現在における経済社会の一員として自分自身をとらえ、ビジネスに関する基礎的および実践的な知識と技術を習得することを目指し、適切に諸活動に対応することのできる能力を身につけていく。また、日々進化していく経済活動に関して明確な関心を持ちさらにすばやく適応できる力量を身につける。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 現代の急速に変化していくビジネス社会についての基礎を身につけていくため、主体的に取り組んでいき。将来のビジネスに役立つ適切な対応、及び技能の習得を目指していく。單元ごとにレポートを提出し自分自身の理解を深めていく。 「思考・判断・表現」 ビジネス活動においての基礎・基本的な知識と技術を身につけた上で思考を深めていき、それをもとに判断力・表現力を身につけていく。 「主体的に学習に取り組む態度」 自ら進んで課題に取り組んでいく姿勢を身につけていき、ビジネスの世界において実践できる力量を身につけていく。
評価の方法	「知識・技能」 授業時間内における実技テスト及び單元ごとのレポートについての評価。さらに、定期テスト及び小テストにおける評価を総合的に判断していく。 「思考・判断・表現」 課題への取り組み状況に重点を置いていき、さらに実技テストなどにより評価していく。 「主体的に学習に取り組む態度」 教員からの問いかけに対しての回答さらに自ら積極的に理解するための取り組みを総合的に評価していく。

学期	学習計画および内容
1 学期	(1) 商業科目における学習ガイダンス 変化の激しいビジネス社会の構造を理解していくために、商業科目の基礎科目であるビジネス基礎においてマーケティング・情報処理・簿記などの商業科目を学んでいく意義を理解しその土台を確立していく時期と考えその学習期間を確立していく。 (2) ビジネスとコミュニケーション 自ら考え、自ら学ぶ習慣を身につけ流通の基礎を学習していく。自給自足の時代から現代のキャッシュレス社会に至るまでの歴史を確実に学習しどのような流れで現代に至ったかを様々な経済活動を通して理解を深めていく。
2 学期	(3) 経済と流通の基礎 国際化した現在を支える流通について学んでいき、物流業及び倉庫業の重要性を理解していく。日本だけの物流にとらわれることなく、世界がつながっていることを様々な例を考え理解を深めていく。 (4) 企業活動の基礎 様々な形態の企業があることの理解を深め、起業についての発想についても学んでいく。実際に電卓を用い利益をあげるための活動を計算することも含め学習を深めていく。
3 学期	(5) ビジネスと売買取引 決算の方法が現在多岐に渡っており、現金を扱う機会が極端に減少していることなど現在のビジネスの状況を理解・学習していく。
備考 ・履修条件 ・注意事項 等	6月「全商珠算・電卓実務検定試験」を受験する。 2月「全商商業経済検定」を受験する。 検定代金・教材費およそ3,000円が必要になる。

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	簿記	4	1年 情報ビジネス科	必修	新簿記 (実教出版)	

学習目標	・簿記について実務に即して、体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。 ・取引の記録と財務諸表の作成の方法を学び、その課題を見出し、対応する力を身に付ける。 ・適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的・協働的に取り組み姿勢を養う。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 ・取引の記録と財務諸表の作成について、体系的に理解している。 ・適正な取引の記録と財務諸表の作成について、基礎的な方法を理解し、取引の記録や財務諸表を作成することができる。
	「思考・判断・表現」 ・簿記の基礎的な知識を持ち、適正な取引の記録とは何かを判断し、適切に取引の記録や財務諸表の作成ができる。
	「主体的に学習に取り組む態度」 ・簿記に関心を持ち、自らより深く学ぼうとする意欲がある。 ・授業で扱った課題や問題演習にとどまらず、さらに問題演習等を繰り返し、知識や技能をより定着させようとしている。
評価の方法	「知識・技能」 ・小テストや定期テストにより、知識技能の理解度を評価する。
	「思考・判断・表現」 ・定期テスト等により、適切な簿記的表現ができているかを評価する。また、教員の発問等に対し、適切にこたえられているかなど、総合的に評価する。
	「主体的に学習に取り組む態度」 ・毎時の授業に出席し、意欲的に取り組んでいるか。また、全員が受験する資格試験以外にも意欲的に受験するかどうかなど、簿記の学習全般に取り組む態度を総合的に評価する。

学期	学習計画および内容
1 学期	(1) 簿記の原理・・・簿記の概要、簿記一巡の手続きの理解、会計帳簿の作成
	(2) 取引の記帳・・・現金と預金、商品売買、債権債務と有価証券
2 学期	(2) 取引の記帳・・・販売費と一般管理費、固定資産、個人企業の純資産と税
	(3) 決算・・・決算整理、財務諸表作成の基礎
3 学期	(4) 本支店会計・・・本支店間の取引と支店間の取引、財務諸表の合併 (5) 記帳の効率化・・・伝票の利用

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	・1月 全商主催簿記実務検定(3級)を全員受験
---------------------------	-------------------------

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	情報処理	4	1年 情報ビジネス科	必修	情報処理 新訂版 (実教出版)	学習と検定 全商情報処理検定 3級問題集(実教出版)

学習目標	自らがパソコンを今後使用し社会に出ても通用するイメージを持ち、学習を進めていく。そのために情報処理の基本的な知識・技術を身につけることをまず行い、その後表計算ソフト・文書作成ソフトの利用方法を確実なものにする。また、将来より高度な情報技術の基礎を固める時期ととらえ、学習を進めていく。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 正確さを最重点に考えスピードを追いかけ過ぎることなく正しいパソコンの使用方法を理解しその技術習得に努力する。 「思考・判断・表現」 情報社会におけるモラルおよびマナーを身につけ、セキュリティの重要性を認識し適切にパソコンの利用ができるように学習する。 「主体的に学習に取り組む態度」 パソコンの技術の向上は当然である中で、国語力・数学力など自分の弱点について再認識し弱点を克服しそのことを活かしていく。
評価の方法	「知識・技能」 実技テスト・単元別レポートへの取り組み。さらに小テスト・定期考査を総合的に判断していく。 「思考・判断・表現」 毎時間の課題への取り組みに重点を置いて評価し、さらに実技テストを行うことにより理解の度合いを確認する。 「主体的に学習に取り組む態度」 自ら積極的に取り組む姿勢を重視していくとともに、自身で課題を見つける姿勢を評価していく。

学期	学習計画および内容
1 学期	パソコンを使用するにあたりモラルおよびマナーを学ぶことを最初に学習する。パソコンの便利さを学ぶとともにあわせて持ち合わせる、危険についても学習する。実際にパソコンに向かったときは正しい指使いを徹底し将来ビジネスに携わったとき時間の有効利用ができるよう正確にさらに速度面でも的確にパソコンが利用できるよう学習する。 表計算ソフト・文書作成ソフトを利用し実際にパソコンに触れる機会を増やしていき基本的な関数や文書作成の基礎を学習する。IF文が苦手な生徒が多いため、以下・未満の違いなど基本に戻って学ぶことも実施していく。文書作成ソフトにおいてはさらに正確性を向上することができるよう学習をしていく。
2 学期	表計算ソフトにおいて、絶対参照を使用する意味を確認し理解した上で学習を進めていく。また関数についてまぎらわしい関数も多数学ぶためその意味を理解し混同しないよう注意していく。文書作成ソフトにおいてはビジネス文書の基本構成を学び、適切なビジネス文書を作成できるようにする。 文書作成ソフトにおいて、さらに正確性を増すことを意識する。表計算ソフトにおいて、グラフは適切な種類のグラフを作成できるようにする。 コンピュータの構成と動作について理解する。 情報のデジタル化におけるデジタルの詳細を理解する。(2進数・画像・音声)
3 学期	表計算ソフトにおいては検定を意識し正確に問題の意図をくみ取る練習を重ねていく。また、検定後はより複雑な表計算について学習を重ねていく。 ネットワークとセキュリティの仕組みを理解する。
備考 ・履修条件 ・注意事項 等	「全商情報処理検定試験3級」 「全商ビジネス文書実務検定試験3級」を全員受験する。 検定料金等約4,000円が必要になる。

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	ビジネス・コミュニケーション	2	2		ビジネスコミュニケーション実教出版	ビジネス計算実務問題集 実教出版 秘書検定実問題集 早稲田出版

学習目標	ビジネス社会において、社内・社外の人との良好なコミュニケーションを築くことができるよう、ビジネスマナーを身につけていく必要がある。グローバル化が進んだ現代において様々な場面を想定しビジネスコミュニケーションを学び実践力を養っていく。
評価の観点 評価規準	関心・意欲・態度 ・業務を進めるにあたって、社内・社外の人とのコミュニケーションを築くための学びを深めていくことに対する意欲と姿勢を築くことができる。
	思考・判断・表現 ・それぞれの役割を意識し実践する能力を身につけるとともに、情報分析の重要性を意識しそれを的確に判断する力を身につけている。
	知識・技能 ・場面・場面に応じた適応力を育成し、それを発揮できる知識および技能の習得に努め学びを深める。 ・報告・連絡・相談をこころがけ次の業務に生かす力を身につけている。
評価の方法	(1)実技テストの結果、筆記テストの結果、小テストの結果
	(2)授業態度、学習に対する意欲、提出物
	以上の2点を踏まえ、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能・知識」等の観点から総合的に判断する。

学期	学習計画および内容
1 学期	(1)ビジネスとコミュニケーション ・企業の組織と人間関係 (2)ビジネスマナー ・応対に関するビジネスマナー ・交際に関するビジネスマナー ・接客に関するビジネスマナー (3)ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション ・コミュニケーションの役割と思考方法 ・ビジネスにおけるコミュニケーション ・コミュニケーションとビジネススキル
2 学期	・ビジネス計算 ・普通計算 (4)ビジネスと外国語 ・企業活動のグローバル化 ・ビジネスの会話 ・ビジネス文書と電子メール
3 学期	・ビジネスにおけるプレゼンテーション ・プレゼンテーションの実践

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	
---------------------------	--

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	マーケティング	3	2		マーケティング (実教出版)	全商商業経済検定 模擬試験問題集 1・2 級 マーケティング (実教出版)

学習目標	マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について理解するとともに、マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。 「思考・判断・表現」 マーケティングをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、マーケティングに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。 「主体的に学習に取り組む態度」 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組もうとしている。
評価の方法	「知識・技能」 定期考査における基本問題や小テストで評価する。 「思考・判断・表現」 定期考査における記述問題やレポートで評価する。 「主体的に学習に取り組む態度」 毎時の授業への取り組みを総合的に評価する。 ・授業中の教員からの問いかけに対する回答 ・提出物(ノート、問題集)

学期	学習計画および内容
1 学期	(1) マーケティングの概要 現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学ぶ。現代市場における消費者保護や環境問題、法令遵守、企業の社会的責任などの重要性について理解を深める。マーケティングの意義や一連の流れを学ぶ。 (2) 消費者行動の理解 マーケティング計画の立案に必要な消費者行動の理解について学ぶ。消費者の心理や購買意思決定までの過程、消費者行動に影響を与える要因について理解を深める。消費者行動の理解について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。 (3) 市場調査 市場調査について理解し、関連する技術を学ぶ。市場調査に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づく調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析する。市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組む。 (4) STP STP分析を理解し、関連する技術を学ぶ。STP分析に関する課題を発見し、その解決方法を考える。STP分析について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。
2 学期	(5) 製品政策 製品政策の意義と製品ミックスを中心とした製品政策の重要性について理解を深める。販売計画の必要性、販売計画の立案および売上高の予測方法について学ぶ。 (6) 価格政策 価格決定に影響を与える要因や生産者、卸売業者、小売業者の価格戦略の概要を学ぶ。市場の動向と価格決定との関係について基礎的・基本的な知識を学ぶ。 (7) チャネル政策 チャネル政策の概要について理解し、チャネルの特性について学ぶ。効率的なチャネルの選択方法とチャネル管理の必要性について理解を深めるとともに、近年の動向についても学ぶ。 (8) プロモーション政策 プロモーション政策の概要と重要性について理解し、効果的なプロモーションの方法に関する基礎的・基本的な知識を学ぶ。現代市場におけるプロモーションの具体的なサービスについての効果を学び、理解を深める。
3 学期	(9) マーケティングのひろがり マーケティングの考え方を深め、様々な分野に応用するマーケティングのひろがりについて学習する。 ●全商商業経済検定(2月)

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	
---------------------------	--

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	原価計算	2	2年	選択N	原価計算（実教出版）	最新段階式 全商簿記実務検定問題集1級原価計算（実教出版）

学習目標	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について学習し、実務に即して体系的・系統的に理解する。また、原価計算及び原価管理を行う力の獲得を目指す。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 原価計算の概念を理解し、原価計算に関する知識を利用し、原価計算を行うことができる。
	「思考力・判断力・表現力等」 企業会計に関する法規と基準を適切に適用し、原価計算に関する会計処理を行い、必要な財務諸表を作成することができる。
	「主体的に学習に取り組む態度」 原価計算に関心を持ち、自ら進んで学習できた。また、より深く知識・技能を得ようと、問題演習等に積極的に取り組んだ。
評価の方法	「知識・技能」 原価計算の概念を理解し、原価計算に関する知識を利用し、各種の原価計算を行うことができる。主に、仕訳・転記・計算で評価。
	「思考力・判断力・表現力等」 原価計算の知識を用いて、各財務諸表の作成や原価計算を行うことができる。主に、原価計算表などで評価。
	「主体的に学習に取り組む態度」 積極的に学習する姿勢や自主的に深く学ぼうとする態度で評価。主に、問題演習や課題などで評価。

学期	学習計画および内容
1 学期	・原価計算の概念と費目別計算 中間考査
	・原価の部門別計算と製品別計算 期末考査
2 学期	・内部会計（製品の完成と販売、工場会計、製造業の決算） ・標準原価計算 中間考査
	・標準原価計算と直接原価計算 期末考査
3 学期	・原価計算のまとめ 学年末考査

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	・全国商業高等学校協会主催簿記実務検定1級（原価計算）の合格を目指す。（1月） ・日本商工会議所主催簿記検定2級の合格を目指す。（2月）
---------------------------	---

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	財務会計Ⅰ	5	2年	選択Ⅰ	財務会計Ⅰ（実教出版）	最新段階式 全商簿記実務検定2級、1級会計（実教出版）

学習目標	財務会計について実務に即して体系的に理解することにより、関連する技術を身に付ける。また、企業会計に関する法規と基準及び会計処理を理解し、会計的側面から企業を分析する力を養う。
評価の観点 評価基準	「知識・技能」 企業会計に関する法規や基準を理解している。また、適切な会計処理を行うことができる。
	「思考力・判断力・表現力等」 企業会計に関する法規と基準を適切に適用し、適切に会計処理を行う、必要な財務諸表を作成することができる。
	「主体的に学習に取り組む態度」 企業会計に関心を持ち、自ら進んで学習できた。また、より深く知識・技能を得ようと、問題演習等に積極的に取り組んだ。
評価の方法	「知識・技能」 企業会計に関する法規や基準を理解している。また、適切な会計処理を行うことができた。主に、法規や基準に関する問題、仕訳・転記で評価。
	「思考力・判断力・表現力等」 財界系の知識を用いて、各財務諸表の作成などの会計処理を行うことができた。主に、主要簿（貸借対照表や損益計算書など）と補助簿で評価。
	「主体的に学習に取り組む態度」 積極的に学習する姿勢や自主的に深く学ぼうとする態度で評価。主に、問題演習や課題などで評価。

学期	学習計画および内容
1 学期	・特殊仕訳帳の記帳 ・費用、収益の見越しと繰り延べ ・株式会社の決算 中間考査
	・企業会計原則の理解 ・「資産」に関する会計処理 期末考査
2 学期	・「資産」に関する会計処理 ・「負債」に関する会計処理 中間考査
	・「負債」に関する会計処理 ・「純資産」に関する会計処理 期末考査
3 学期	・損益計算と財務諸表の作成 ・連結財務諸表の作成 学年末考査

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	・全国商業高等学校協会主催簿記実務検定2級の合格を目指す(6月) ・全国商業高等学校協会主催簿記実務検定1級(会計)の合格を目指す(1月) ・日本商工会議所主催簿記検定2級の合格を目指す(2月)
---------------------------	---

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	簿記	3	2年 情報ビジネス科	選択N	新簿記 (実教出版)	反復式 学習と検定 簿記問題集2級 (実教出版)

学習目標	I 年次に習得した個人企業における取引の貴重・計算・整理に関する知識と技術をもとに、個人企業の特殊な取引や株式会社における基本的な取引を身につけ、実社会での簿記の仕組みについて理解する。また、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身につける。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 個人企業の特殊な取引や株式会社に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、簿記の基本的な仕組みについて理解でき、適切に活用できた。 「思考力・判断力・表現力等」 各特殊取引における様々な記帳について解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。 「主体的に学習に取り組む態度」 個人企業において特殊な取引や株式会社に関心を持ち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。
評価の方法	「知識・技能」 小テストや定期考査による。副教材を用いた課題解決と取り組み。 主に帳票・仕訳・転記 「思考力・判断力・表現力等」 副教材を用いた課題及び報告書に対する取り組み課程。 基本である仕訳から帳簿へ記帳する方法への取り組み。 「主体的に学習に取り組む態度」 授業で扱う課題に対する積極性や、学習内容から深く学ぼうとする態度。

学期	学習計画および内容
1 学期	割賦販売、委託販売、未着商品、試用販売、予約販売、手形についての処理方法、現金・当座預金出納帳 中間考査 仕入帳、売上帳、普通仕訳帳、5伝票制・伝票の集計と転記、費用・収益の繰り延べ 期末考査
2 学期	費用・収益の見越し、有価証券の評価、減価償却(間接法)、決算整理仕訳、決算振替仕訳、精算表 中間考査 帳簿決算、損益計算書、貸借対照表、本支店会計処理 期末考査
3 学期	株式会社の取引 学年末考査

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	・全商簿記実務検定3級の合格者を増やす。 ・全商簿記実務検定2級の合格を目指す。 ・日商簿記検定3級の合格を目指す。
---------------------------	--

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	ソフトウェア活用	4	2	選択Ⅰ	ソフトウェア活用	学習と検定 全商情報処理検定テスト 2級ビジネス情報部門 (実教出版)

学習目標	企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成する。ソフトウェアの活用について実務に即して体系的理解。ソフトウェアの活用に関する課題を発見し科学的な根拠に基づいて解決する力を養う。ソフトウェアの活用主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。
評価の観点 評価規準	「主体的に学習に取り組む態度」 ・ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を持っている。
	思考・判断・表現 ・適切な手段を用いて情報を収集・処理し、要求に応じた適切なシステム開発の要件を整理するなどの思考・判断力・表現力を身につけている。
	知識・技能 ・ビジネスにおける情報活用に必要な、情報の分析手法、システムの開発、ネットワークの構築などの技能を身につけている。 ・ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに、ビジネスにおける情報活用を実践するために必要な知識を身につけている。
評価の方法	(1)授業で行う小テスト、実技テストの結果、筆記テストの結果
	(2)授業態度、学習意欲、提出物
	以上の2点を踏まえ「技能・知識」、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」等の観点から総合的に判断する。

学期	学習計画および内容
1 学期	(1) ビジネスと情報 ・情報社会とビジネス ・ネットワークとビジネス (2) 情報通信ネットワークの活用 ・ネットワークの基礎 ・セキュリティ管理
	(3) 表計算ソフトウェアの活用 ・集計処理 ・オペレーションズリサーチの基礎 ・ビジネス計算 実技テスト
2 学期	(3) 表計算ソフトウェアの活用 ・手続きの自動化 (4) データベースソフトウェアの活用 ・ビジネス情報とデータベース
	(4) データベースソフトウェアの活用 ・データベースの利用 ・SQL操作 実技テスト
3 学期	(5) ソフトウェアを活用したシステム開発 ・システム開発の基礎 ・表計算ソフトウェアによる開発 総合テスト

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	
---------------------------	--

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	課題研究	3	3年 情報ビジネス科	必修		

学習目標	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につける。オリエンテーションにより、各生徒がコースを選択。それぞれの課題に向け研究を進める。研究内容は次のことを前提とする。 (1)調査、研究、実験(2)作品制作(3)産業現場等における実習(4)職業資格の取得。
評価の観点 評価規準	知識・技能 ・商業の各分野と学習に関する様々な資料を選択し、活用することができるか。
	思考・判断・表現 ・適切な手段を用いて情報を収集・処理し、課題に対し他者により伝わる表現方法を採用しているか。
	主体的に学習に取り組む態度 ・ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における課題解決のリーダーとなる意欲と態度を持っている。
評価の方法	知識・技能 ・商業の各分野と学習に関する様々な資料を選択し、活用することができるかを判断する。
	思考・判断・表現 ・適切な手段を用いて情報を収集・処理し、課題に対し他者により伝わる表現方法を採用しているかを判断する。
	主体的に学習に取り組む態度 ・課題に対し主体的、積極的に研究し、将来、職場における課題解決のリーダーとなる意欲と態度を示しているかを判断する。

学期	学習計画および内容
1学期	・オリエンテーション(学習の意義、心構え、進め方など) ・研究テーマの設定および目標と計画の策定 ・テーマにより研究を実施
	・中間報告 ・研究の目標や計画の追加や修正
2学期	・テーマにより研修を実施
	・研究の成果をもとに、発表資料を作成
3学期	・研究成果の発表会

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	各自がテーマを設定し研究を行う授業。研究成果発表会に向けて、丁寧な目標の設定と、積極的な研究をおこなうこと
---------------------------	---

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	総合実践	2	3			

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、ビジネスを通じ、地域社会をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての資質や能力を育成することを目指す。
評価の観点 評価規準	知識・技能 ・商業の各分野と学習に関する様々な資料を選択し、活用することができるか。
	思考・判断・表現 ・適切な手段を用いて情報を収集・処理し、課題に対し他者により伝わる表現方法を採用しているか。
	主体的に学習に取り組む態度 ・ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における課題解決のリーダーとなる意欲と態度を持っている。
評価の方法	知識・技能 ・商業の各分野と学習に関する様々な資料を選択し、活用することができるかを判断する。
	思考・判断・表現 ・適切な手段を用いて情報を収集・処理し、課題に対し他者により伝わる表現方法を採用しているかを判断する。
	主体的に学習に取り組む態度 ・課題に対し主体的、積極的に研究し、将来、職場における課題解決のリーダーとなる意欲と態度を示しているかを判断する。

学期	学習計画および内容
1 学期	・オリエンテーション ・同時同業での会計処理(見積依頼～支払い)
	・同時同業での会計処理(決算)
2 学期	・同時同業での会計処理 ・ビジネスマナーについて
3 学期	

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	各自がテーマを設定し研究を行う授業。研究成果発表会に向けて、丁寧な目標の設定と、積極的な研究をおこなうこと
---------------------------	---

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	ビジネス法規	2	3		ビジネス法規・実教出版	

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、ビジネスを通じ、地域社会をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての資質や能力を育成することを目指す。
評価の観点 評価規準	知識・技能 ・ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解しているか。
	思考・判断・表現 ・法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を持っているか。
	主体的に学習に取り組む態度 ・ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を有しているか。
評価の方法	知識・技能 ・ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解しているか、用語や条文についての理解度について判断する。
	思考・判断・表現 ・法規の条文について適切に理解し根拠を適切に示しているか、他者が適切に理解できる表現を使用しているかを判断する。
	主体的に学習に取り組む態度 ・学習内容や課題等に対し主体的、積極的に取り組み、また、他者と協働的に取り組む意欲と態度を示しているかを判断する。

学期	学習計画および内容
1 学期	第1章 法の概要 第2章 権利・義務とその主体 中間審査
	第2章 権利・義務とその主体 第3章 財産権の変動 期末審査
2 学期	第4章 企業活動と法規 第5章 企業責任と法規 中間審査
	第6章 紛争の解決と予防 第7章 税と法規 期末審査
3 学期	第7章 税と法規 学年末審査

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	各自がテーマを設定し研究を行う授業。研究成果発表会に向けて、丁寧な目標の設定と、積極的な研究をおこなうこと
---------------------------	---

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	会計探求	2	3			反復式 会計問題集（会計1級）実況出版

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、ビジネスを通じ、地域社会をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての資質や能力を育成することを目指す。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 企業会計に関する法規や基準を理解している。また、適切な会計処理を行うことができる。
	「思考力・判断力・表現力等」 企業会計に関する法規と基準を適切に適用し、適切に会計処理を行う、必要な財務諸表を作成することができる。
	「主体的に学習に取り組む態度」 企業会計に関心を持ち、自ら進んで学習できた。また、より深く知識・技能を得ようと、問題演習等に積極的に取り組んだ。
評価の方法	「知識・技能」 企業会計に関する法規や基準を理解している。また、適切な会計処理を行うことができた。主に、法規や基準に関する問題、仕訳・転記で評価。
	「思考力・判断力・表現力等」 財界系の知識を用いて、各財務諸表の作成などの会計処理を行うことができた。主に、主要簿（貸借対照表や損益計算書など）と補助簿で評価。
	「主体的に学習に取り組む態度」 積極的に学習する姿勢や自主的に深く学ぼうとする態度で評価。主に、問題演習や課題などで評価。

学期	学習計画および内容
1 学期	・「固定資産」に関する会計 ・「純資産」に関する会計 中間考査
	・「流動負債」「固定負債」に関する会計 期末考査
2 学期	・財務諸表分析に関すること ・連結財務諸表に関すること 中間考査
	・貸借対照表の作成に関すること ・損益計算書の作成に関すること 期末考査
3 学期	・会社法、企業会計原則に関すること 学年末考査

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	・全国商業高等学校協会主催簿記実務検定1級(会計)の合格を目指す。(6月) ・日本商工会議所主催簿記検定2級の合格を目指す。(11月)
---------------------------	--

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	原価計算	2	3年	選択N	原価計算（実教出版）	最新段階式 全商簿記実務検定問題集1級原価計算（実教出版）

学習目標	原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について学習し、実務に即して体系的・系統的に理解する。また、原価計算及び原価管理を行う力の獲得を目指す。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 原価計算の概念を理解し、原価計算に関する知識を利用し、原価計算を行うことができる。
	「思考力・判断力・表現力等」 企業会計に関する法規と基準を適切に適用し、原価計算に関する会計処理を行い、必要な財務諸表を作成することができる。
	「主体的に学習に取り組む態度」 原価計算に関心を持ち、自ら進んで学習できた。また、より深く知識・技能を得ようと、問題演習等に積極的に取り組んだ。
評価の方法	「知識・技能」 原価計算の概念を理解し、原価計算に関する知識を利用し、各種の原価計算を行うことができる。主に、仕訳・転記・計算で評価。
	「思考力・判断力・表現力等」 原価計算の知識を用いて、各財務諸表の作成や原価計算を行うことができる。主に、原価計算表などで評価。
	「主体的に学習に取り組む態度」 積極的に学習する姿勢や自主的に深く学ぼうとする態度で評価。主に、問題演習や課題などで評価。

学期	学習計画および内容
1 学期	・標準原価計算 中間考査
	・標準原価計算と直接原価計算 期末考査
2 学期	・内部会計（製品の完成と販売、工場会計、製造業の決算） ・財務諸表分析 中間考査
	・財務諸表分析 期末考査
3 学期	・原価計算のまとめ 学年末考査

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	・全国商業高等学校協会主催簿記実務検定1級（原価計算）の合格を目指す。（6月） ・日本商工会議所主催簿記検定2級の合格を目指す。（11月）
---------------------------	--

教科名 科目名		単位数	年次・コース	選択群	教科書・出版社名	副教材・出版社名
商業	ネットワーク活用	2	3年		ネットワーク活用（実教出版）	

学習目標	・ビジネスにおけるインターネットの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることを目指す。 ・ビジネスにおいてインターネットを活用することに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力の育成を目指す。
評価の観点 評価規準	「知識・技能」 インターネットに関する知識を有し、利活用することができる。
	「思考力・判断力・表現力等」 インターネットに関する技術を使い、適切にインターネットへアクセスするシステムを構築することができる。
	「主体的に学習に取り組む態度」 インターネットに関する知識・技術関心を持ち、自ら進んで学習できた。また、より深く知識・技能を得ようと、問題演習等に積極的に取り組んだ。
評価の方法	「知識・技能」 実技テスト・単元別レポートへの取り組み。さらに小テスト・定期考査を総合的に判断していく。
	「思考・判断・表現」 課題への取り組みに重点を置いて評価し、さらに実技テストを行うことにより理解の度合いを確認する。
	「主体的に学習に取り組む態度」 自ら積極的に取り組む姿勢を重視していくとともに、自身で課題を見つける姿勢を評価していく。

学期	学習計画および内容
1 学期	(1) 情報技術の進歩とビジネスについて ビジネスの変化、関係法規とガイドラインについて
	(2) インタネットとセキュリティについて インターネットの仕組み、情報セキュリティの確保について
2 学期	(3) 情報コンテンツの制作 図形や静止画、動画について
	(3) 情報コンテンツの制作 図形や静止画、動画について
3 学期	(4) インターネットの活用

備考 ・履修条件 ・注意事項 等	
---------------------------	--